２５「姉崎神社」

国会図書館に行ってみた。

大した用事でもなかったのだが、一度は行ってみたいと思っていたことと、リーマン予想に関する黒川信重の本を見たいと思ったからだ。

入館するためには、入り口で必要事項を記入し、身分証明をして入館証をもらう。

国会図書館は閉架式図書館なので、自由に本を手にすることはできない。パソコンで自分の見たい本を検索し、番号を書いて係員に出してもらわなければならない。

一度に３冊まで出してもらうことができるが、貸し出ししないので調べたいことはノートに写し取らなければならない。コピーサービスがあるが１ページがバカにならない値段だ。

国会図書館の凄いところは、全国どこからでも、書籍が特定できてその本のページを指定すれば、その部分をコピーして郵送してくれることだ。

本一冊分だと莫大な費用がかかるが、数ページなら非常に利用価値が高いと思う。

館内は広く、日本国内で発行されたすべての出版物は、国会図書館に納入されることになっているので、本好きの人にとっては一日いても飽きないだろう。

調べ物が終わって時間があったので、館内を見て歩く。一部開架式の書籍もあって興味深く見ていくが、本のタイトルを見ていくだけでも大変だ。

たまたま千葉百科事典というのがあって見て行くと、姉崎神社の由来があったのでノートに書き写してきた。

「姉崎」という名前の由来は、多分「姉が先」から来ているのだろうと思っていたが、はっきりして良かった。

以下は書き写した内容------

『姉崎の名は神社に由来する。姉崎神社の祭神、志那闘弁命（シナトベノミコト）が弟（下記注）の志那都比古命（ヒナツヒコノミコト：島穴神社の祭神）より先にこの地に来て待ったので、姉が崎（先）となったという。

姉崎神社は三代実録に「姉崎神」とする古社で、次のような話が伝承されている。島穴神社がある用事で北へ出かけ、妃の姉崎神は帰りを待ったが遂に帰らなかった。妃は待つ＝松を嫌ったといい、住民も門松を飾らないしきたりがある。

地形学的には「崎」は海に突出した地形をさし、神社の台地がそのようであった。

（注）またの説では、志那闘弁命と志那都比古命（弟）は夫婦神となっている。

姉崎神社の祭神は志那闘弁命：島穴神社（市原市島野にある）の祭神 志那都比古命の妃で夫の帰りを待ったが、ついに帰らなかった。待つと松との読み同じであったので、松を嫌ったといい、うっそうと茂る境内の老樹の中には１本の松もないという。また、この地域では門松も飾らないしきたりとなっている。』

この地に生まれ育ったが、神社の由来や神話にはあまり興味がなく知らなかった。多分地元の人は、これくらい常識として知っている人が多いのではないかと思うと、恥ずかしい思いである。

「姉崎」や「姉ヶ崎」という地名には、めったにお目にかかったことがないが、陸中海岸国立公園の浄ヶ浜には「姉ヶ崎」という地名があった。旅行していて偶然見つけたものだ。

（２０１１．８．２２）